

【34 期生地域ミーティング結果】

6月16日(木)&17日(金)の参加者数 女性9名+男性6名 計15名

女性平均年齢68.2歳(60~71歳)

男性平均年齢74.5歳(65~85歳)

今後の予定

区会入会説明会=令和5年1月27日(金)(鯉城5階ホール)

入会申込日 =令和5年2月15日(水)・17日(金)

入会までのフォロー体制について

- ① 花水木鯉城会から花水木だよりの配布(学園一括お届け送料不要)
※一年生37期はコストと効果の検討、配布しない
- ② 趣味の作品展への出展招待案内を花水木だよりに同封する
- ③ 会長名の案内文書を用意添付する

【高齢者の2割が「生きがい持たず」2022年版「高齢社会白書」】

今年の「高齢社会白書」が6/14閣議決定され、65歳以上のおよそ2割が「生きがいを感じていない」と回答したことが分かりました。今年の「高齢社会白書」では、[内閣府](#)が去年12月に65歳以上の高齢者、およそ2000人を対象に行った「生きがい」に関する調査結果が報告されました。結果として「生きがい」を「感じている」と答えた人は全体の72.3パーセントだった一方で、「感じていない」と答えたのは20.5パーセントに上りました。また、生きがいを感じている人は収入を伴う仕事や地域の社会活動などに参加している傾向が高かったほか、「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」と答えた人は「情報機器を使わない」と答えた人に比べて、生きがいを感じている割合が高い傾向にありました。近所づきあいや外出頻度が多い人ほど生きがいを感じる割合が高かった。

白書では、高齢者が充実した暮らしを送るためには、地域での居場所を持つことや、情報格差の解消などが重要だとしていて、高齢者がこうした機会を得られるよう、環境の整備を進めるべきだとしています。

【ネットで「生きがい」3倍に 65歳以上、未利用者比べ】

インターネットやネット交流サイト(SNS)を利用している65歳以上の高齢者は、使っていない人に比べ「生きがいを十分に感じる」と回答した人が3倍以上に上った。白書は「今後も高齢者のデジタルディバイド(情報格差)解消に向けた支援が重要」と強調している。調査は21年12月に全国の60歳以上の男女4000人に郵送で実施。有効回答率は60.9%。白書では65歳以上の回答(2049人)を取り上げた。今回初めて、質問ごとに生きがいを感じる程度を尋ね、分析した。

【高齢化率は28.4%】

我が国の総人口は、令和元(2019)年10月1日現在、1億2,617万人となっている。65歳以上人口は、3,589万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)も28.4%となった。65歳以上人口を男女別に見ると、男性は1,560万人、女性は2,029万人で、性比(女性人口100人に対する男性人口)は76.9であり、男性対女性の比は約3対4となっている。

以上